

### (3) ダ イ ズ

#### 主要病害虫別防除方法

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
ウイルス病類 (SoyMV) (SBMV)	①無病株の種子を用いる。 ②発病株は、早めに抜き取る。 <b>【参考事項】</b> ダイズを侵すウイルスは13種類ある。このうち、褐斑斑を生じるものが5種類、種子伝染するものが7種類ある。	①媒介昆虫のアブラムシ類などを防除する（アブラムシ類の項参照）。
菌核病 ( <i>Sclerotinia</i> )	①多発ほ場では、連作しない。 ②密植や窒素肥料の過用を避ける。 ③田畑輪換をする。 <b>【参考事項】</b> 開花期以降の発病が多く、多雨の年は発生が多い。	①開花10～15日目頃に農薬を散布する。 (例) イプロジオン水和剤（ロブラール水和剤） チオファネートメチル水和剤（トップジンM水和剤） プロシミドン水和剤（スミレックス水和剤）
黒根腐病 ( <i>Colonectria</i> )	①多発ほ場では、連作しない。 ②排水を良くする。 ③被害茎葉は、集めて処分する。 ④1年休耕して夏期湛水処理を行う。 ⑤3年単位以上の田畑輪換をする。 <b>【参考事項】</b> 土壌伝染する。	①種子消毒をする。 (例) ベノミル水和剤（ベンレート水和剤） チアメトキサム・フルジオキサニル・メタラキシルM水和剤 （クルーザーMAXX） ②出芽4週間後以降に農薬を散布する。 (例) テブコナゾール水和剤（シルバキュアフロアブル）
さび病 ( <i>Phakopsora</i> )	①多発ほ場では、連作しない。 ②被害茎葉をほ場に残さない。 ③密植や窒素肥料の過用を避ける。 ④田畑輪換をする。 <b>【参考事項】</b> は種期が早いほど発生が早く、被害も大きい傾向がある。	①発生初期に農薬で防除する。 (例) 硫黄・銅水和剤（イデクリーン水和剤、園芸ゴールド） ペンチオピラド水和剤（アフエットフロアブル）
紫斑病 ( <i>Cercospora</i> )	①健全種子を使用する。 ②被害茎葉は、集めて処分する。 <b>【参考事項】</b> 種子伝染する。子実、葉、茎、莢などに発生し、空気伝染で広がる。 結実期が多雨冷涼の年に発生が多い。 収穫後の乾燥が遅い場合に発生が多くなる。 チオファネートメチル、ベノミル耐性菌が全国各地で確認されているので注意する。	①種子消毒をする。 (例) チウラム水和剤（キヒゲンR-2フロアブル） チウラム・ベノミル水和剤（ベンレートT水和剤20） チアメトキサム・フルジオキサニル・メタラキシルM水和剤 （クルーザーMAXX） ②若莢期に農薬を散布する。 (例) アゾキシストロビン水和剤（アミスター20フロアブル） ジエトフェンカルブ・ベノミル水和剤（ニマイバー水和剤） ピリベンカルブ水和剤（ファンタジスタフロアブル） 銅水和剤（Zゴールド） ③混合剤で開花期から若莢期に害虫と同時に防除する。 (例) エトフェンプロックス・アゾキシストロビン水和剤 （アミスタートレボンSE）
白絹病 ( <i>Sclerotium</i> )	①多発ほ場では、連作しない。 ②密植や過繁茂を避ける。 ③排水を良くする。 ④田畑輪換をする。 ⑤は種前に石灰を10a当たり150～200kg施用する。 ⑥被害茎葉は集めて処分する。 <b>【参考事項】</b> 土壌伝染する。 ダイズのほか、イネ科、ナス科、ウリ科など多種類の作物を侵す。 麦わらなどの粗大有機物の投入は、発生を助長する。	①種子消毒をする。 (例) チアメトキサム・フルジオキサニル・メタラキシルM水和剤 （クルーザーMAXX） ②は種前に土壌消毒を行う（土壌病害虫の防除法の項参照）。 (例) クロルピクリンくん蒸剤（クロールピクリン、クロピク80、ドジョウピクリン、ドロクロール、クロルピクリン錠剤） ③発生初期に農薬で防除する。 (例) トルクロホスメチル水和剤（リゾレックス水和剤）（土壌灌注）

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
立枯病 ( <i>Fusarium</i> , <i>Gibberella</i> )	①健全種子を使用する。 ②多発ほ場では、連作しない。 ③排水を良くする。 ④被害茎葉は集めて処分する。	①種子消毒をする。 (例) チウラム水和剤 (チウラム80) ②は種前に土壌消毒を行う (土壌病害虫の防除法の項参照)。 (例) クロルピクリンくん蒸剤 (クロールピクリン、クロピク80、ドジョウピクリン、ドロクロール、クロルピクリン錠剤)
カメムシ類	①レンゲやクズなどマメ科の植物や雑草を除去する。  <b>【参考事項】</b> 加害(吸汁)するカメムシ類は、ホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、アオクサカメムシ、ミナミアオカメムシなどである。 荒地や雑草地などの隣接地から飛来する。	①若莢期から粒肥大期に散布する。 (例) エチプロール水和剤 (キラップフロアブル) エトフェンプロックス乳剤 (トレボン乳剤、トレボンEW、トレボンエア) ジノテフラン液剤 (スタークル液剤10、スタークルメイト液剤10) MEP乳剤 (スミチオン乳剤) PAP乳剤 (エルサン乳剤)
アブラムシ類		①農薬を塗抹処理した種子を使用する。 (例) チアメトキサム水和剤 (クルーザーFS30) チアメトキサム・フルジオキソニル・メタラキシルM水和剤 (クルーザーMAXX) ②は種時に粒剤を播溝施用する。 (例) クロチアニジン粒剤 (ダントツ粒剤) ③発生初期に農薬を散布する。 (例) クロチアニジン水溶剤、クロチアニジン水和剤 (ダントツ水溶剤、ダントツフロアブル) MEP乳剤 (スミチオン乳剤) PAP乳剤 (エルサン乳剤)
	<b>【参考事項】</b> ジャガイモヒゲナガアブラムシは直接吸汁害の他に病原ウイルスを媒介するので、初期防除に努める。 発芽初期に有機リン剤など浸透移行性の高い剤を散布すると薬害が出るので注意する。	
コガネムシ類	①必要以上に有機物を施用しない。	①加害初期に農薬を散布する。 (例) マラソン乳剤 (マラソン乳剤) テトラニリプロール水和剤 (ヨーバルフロアブル)
	<b>【参考事項】</b> マメコガネ、ヒメコガネ、ドウガネブイブイなどが葉を食害する。5月上旬に気温の高い年に発生が多い。	
フタスジヒメハムシ	①収穫後に畑内の落ち葉をすき込む。	①農薬を塗抹処理した種子を使用する。 (例) チアメトキサム水和剤 (クルーザーFS30) チアメトキサム・フルジオキソニル・メタラキシルM水和剤 (クルーザーMAXX) ②は種時に粒剤を播溝施用する。 (例) クロチアニジン粒剤 (ダントツ粒剤) ③成虫発生時に農薬を散布する。 (例) シベルメトリン乳剤 (アグロスリン乳剤) ジノテフラン液剤 (スタークル液剤10、スタークルメイト液剤10)
	<b>【参考事項】</b> 成虫は葉、子葉、茎、莢を円孔状に食害し、幼虫は根粒を食害する。 莢の食害は黒斑粒の原因となる。 多発地ではダイズの初期生育が阻害されるが、地力のないほ場では被害が大きくなる。 成虫が畑や畦畔の落ち葉や草の間で越冬する。	
ダイズサヤタマバエ	①莢に毛がない品種や莢の毛が長く密で、突立っている品種は被害が少ない。 ②疎植にする。 ③被害の少ない品種を栽培する。 ④ダイズとサツマイモの混作をする。	①開花終期から莢肥大初期に散布する。 (例) エトフェンプロックス粉剤、エトフェンプロックス乳剤 (トレボン粉剤DL、トレボン乳剤) ジノテフラン液剤 (スタークル液剤10、スタークルメイト液剤10) フェンバレート・MEP水和剤 (パーマチオン水和剤) MEP乳剤 (スミチオン乳剤)
	<b>【参考事項】</b> 被害莢は生長しないで落下する。1粒だけ害された莢は不正形となる。 開花期と成虫の発生盛期が重なると被害が多い。周囲に山か林のある畑では被害が多い。	

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
マメシクイガ	①収穫後は、速やかに耕耘し連作を避ける。  【参考事項】 比較的冷涼地を好み、年1回の発生。土中で越冬し連作すると発生が多くなる。	①莢伸長終期から子実肥大初期に農薬を散布する。 (例) エトフェンプロックス乳剤 (トレボン乳剤、トレボンEW) クロラントラニリプロール水和剤 (プレバソフフロアブル5) ピリダリル水和剤 (プレオフロアブル) MEP乳剤 (スミチオン乳剤) PAP乳剤 (エルサン乳剤) ②混合剤で紫斑病と同じ時期に防除を行う。 (例) エトフェンプロックス・アゾキシストロピン水和剤 (アミスタートレボンSE)
シロイチモジ マダラメイガ	①収穫後は、速やかに耕耘し連作を避ける。  【参考事項】 極早生種と中晩生種では、中生種より被害が少ないことが多い。年3～4回発生し、土中で越冬する。	①莢肥大初期から2回程度農薬を散布する。 (例) エトフェンプロックス乳剤 (トレボン乳剤) フェンバレレート・MEP水和剤 (パーマチオン水和剤) MEP乳剤 (スミチオン乳剤) PAP乳剤 (エルサン乳剤)
マメヒメサヤ ムシガ	  【参考事項】 極早生種と中晩生種に被害が多い。	①莢肥大初期から2回程度農薬を散布する。 (例) フェンバレレート・MEP水和剤 (パーマチオン水和剤) MEP乳剤 (スミチオン乳剤)
ハスモンヨトウ	①白変葉は、発見したら適時除去する。  【参考事項】 薬剤感受性低下が危惧されるので、効果が劣った場合は、直ちに他の系統の農薬で防除する。 IGR剤はカメムシ類への防除効果は期待できないので注意する。 BT剤は微生物農薬であり、他の化学農薬に比べ速効性ではやや劣るので発生初期 (若齢期) に散布する。	①若齢幼虫の分散する前に農薬を散布する。 (例) インドキサカルブ水和剤 (トルネードエースDF) エトフェンプロックス乳剤 (トレボン乳剤、トレボンEW、トレボンエアー) クロマフェノジド水和剤 (マトリックフロアブル) クロラントラニリプロール水和剤 (プレバソフフロアブル5) テトラニリプロール水和剤 (ヨーバルフロアブル) ピリダリル水和剤 (プレオフロアブル) フェンバレレート・MEP水和剤 (パーマチオン水和剤) フルフェノクスロン乳剤 (カスケード乳剤) BT水和剤 (ゼンターリ顆粒水和剤、デルフィン顆粒水和剤、 フローバックDF、エコマスターBT、サブリーナフロアブル) PAP粉剤 (エルサン粉剤2) PAP乳剤 (エルサン乳剤)
オオタバコガ		①開花初期に農薬を散布する。 (例) クロルフルアズロン乳剤 (アタブロン乳剤) クロラントラニリプロール水和剤 (プレバソフフロアブル5) ピリダリル水和剤 (プレオフロアブル) BT水和剤 (デルフィン顆粒水和剤、チューンアップ顆粒水和剤、 サブリーナフロアブル、エスマルクDF、トアローフロアブルCT)
シロイチモジ ヨトウ		①発生初期に農薬を散布する。 (例) ピリダリル水和剤 (プレオフロアブル) BT水和剤 (デルフィン顆粒水和剤、エコマスターBT、フローバックDF、 ゼンターリ顆粒水和剤)
ハダニ類	①発生源になる周辺雑草や作物残さを除去する。 ②ハダニ類の天敵が自然発生する条件を作るため、ハダニ類以外の害虫防除に天敵類に影響の少ない殺虫剤を使用する。  【参考事項】 主にナミハダニ、ニセナミハダニが寄生する。	①多発時に防除する。 (例) フルフェノクスロン乳剤 (カスケード乳剤)